

# 平成 27 年度公共事業再評価の対応方針について

平成27年度公共事業再評価の対象となった4事業について、公共事業評価監視委員会の意見具申を踏まえ、対応方針を以下のとおりとします。

## 1 長野県公共事業評価監視委員会の意見

公共事業評価監視委員会(委員長:松岡保正氏)に意見を求めた4事業に関して、同委員会から県の再評価案を「妥当」とする意見の具申がありました。

経緯等 平成27年 7月23日 第1回長野県公共事業再評価委員会(再評価案作成)  
平成27年 8月26日 公共事業評価監視委員会(審議4回、現地調査1回)  
~12月16日  
平成28年 1月14日 公共事業評価監視委員会から意見具申

## 2 県の対応方針

再評価対象事業に対する県の対応方針は、表-1のとおりとします。また、方針理由は【別紙1】、委員会からの意見に対する対応は、【別紙2】のとおりとします。

表-1 平成 27 年度 公共事業再評価対象事業一覧及び対応方針

分野	再評価理由	事業名	路河川名等	箇所名(市町村名)	採択年度	現行計画		県の再評価案		評価監視委員会意見	県の対応方針
						総事業費(百万円)	H27末事業進捗率(%)	方針	コスト縮減額(百万円)		
河川	再評価	防災・安全交付金事業	一級河川 砥川	赤砂(下諏訪町)	H18	3,570	72.5%	(見直して)継続	30	県案どおり	(見直して)継続
	再評価	防災・安全交付金事業	一級河川 金原川	海善寺北~本海野(東御市)	H18	2,900	50.7%	継続	-	県案どおり	継続
	再々評価	防災・安全交付金事業	一級河川 求女川	田中(東御市)	H3	1,570	82.8%	継続	-	県案どおり	継続
住宅	再々評価	県営住宅建替事業	県営住宅アルプス団地	(安曇野市)	H13	2,620	26.7%	継続	-	県案どおり	継続
合計				4件		10,660			30		

## 平成27年度公共事業再評価の対応方針

No	路河川名 箇所名	再評価 理由	県の対応方針		担当 部局
			方針	方針理由・見直し内容	
防災・安全交付金事業					
1	一級河川 砥川 赤砂 (下諏訪町)	再評価	(見直して) 継続	残区間は、流下能力が不足しており、浸水被害防止の観点から事業実施が必要であるが、残事業費についてコスト縮減が可能であることから、「見直して継続」とする。	建設部
防災・安全交付金事業					
2	一級河川 金原川 海善寺北～本海野 (東御市)	再評価	継続	残区間は、流下能力が不足しており、浸水被害防止の観点から事業実施が必要であるため、「継続」とする。	建設部
防災・安全交付金事業					
3	一級河川 求女川 田中 (東御市)	再々評価	継続	残区間は、最下流部のしなの鉄道渡河部のみであり、浸水被害防止の観点から事業実施が必要であるため、「継続」とする。	建設部
県営住宅建替事業					
4	県営住宅 アルプス団地 (安曇野市)	再々評価	継続	残区域の住宅は、老朽化が著しく、居住環境の改善及び防犯、管理上の観点から、さらに市内小規模団地の集約化を図るため建替が必要であり、「継続」とする。	建設部

## 平成27年度公共事業評価監視委員会からの 意見に対する対応方針

No	【事業名】 箇所名	審議上のその他の意見	県の対応方針
1	防災・安全交付金事業 一級河川 砥川 赤砂 (下諏訪町)	・最下流部に計画されている赤砂崎防災公園について、想定氾濫区域内に位置していることから、住民等に対しては、災害事象に対応した避難行動がとられるよう周知を図るなど取り組まれない。	・今後とも町と協力し、出水による災害に対して適切に避難行動がとれるよう、住民の皆様へ周知してまいりたい。
		・近年多発する局地的な大雨による水害が激甚化していることを踏まえ、未整備区間が一定量あることから早期改修に取り組まれない。	・早期に改修が完了できるよう、優先して事業を推進してまいりたい。
2	防災・安全交付金事業 一級河川 金原川 海善寺北～本海野 (東御市)	・特になし	/
3	防災・安全交付金事業 一級河川 求女川 田中 (東御市)	・河川改修に併せて整備したホタル水路について、継・続的な活用が図られるよう隣接する小学校等、地元と行政が連携して草刈り等の維持管理や既設の補修に取り組まれない。	・県が中心となり、小学校や地元、市と連携し、ホタル水路等、良好な河川環境が維持できるよう取り組んでまいりたい。
		・しなの鉄道との渡河部にある明治時代のレンガ造りの鉄道施設や、ホタル水路については、地域の財産として、観光面も含め積極的な活用が図られることを希望する。	・地域の財産を観光資源として活用できるよう、地元や市と連携して検討してまいりたい。
4	県営住宅建替事業 県営住宅アルプス団地 (安曇野市)	・今後団地の設計に当たっては、バリアフリーに加え、ユニバーサルデザインによる設計の視点も取り入れ、すべての人を対象に、多くの人が使いやすい施設となるよう取り組まれない。	・今後の県営住宅建設の設計に当たっては、これまでのバリアフリーに加え、だれもが使用しやすいユニバーサルデザインの視点も取り入れるよう努めてまいりたい。
		・単に住むだけの住宅の提供にとどまらず、ゆとりのある暮らしの実現といった観点から、公園等の共有部分についても、その地域に合った整備が図られるよう、市や地元自治会と協議を進めること。	・県営住宅は地域コミュニティの形成の場としても重要な役割を果たしていることから、整備を進めるに当たっては、市や地元自治会と意見交換してまいりたい。